

「池田小学校の下門猿の子踊り伝承活動の取組」

1 学校名

指宿市立池田小学校

2 学年・人数

小学1～6年生（22人）

3 場所・日時

(1) 練習の日時・場所

場所：池田小学校体育館及び校庭

日時：5～11月実施

(2) 発表の日時・場所（令和4年度）

- ・ 令和4年10月2日（日） 池田小学校（運動会）
- ・ 令和4年11月26日（土） 指宿市民会館（生涯学習フェスティバル）

4 伝承・活用に取り組んでいる伝統芸能について

(1) 名称

下門猿の子踊り（しもかどさるのこおどり）

(2) 時代

延享元年2月21日から延享5年7月12日の間（1744年～1748年）のいずれかの年に始まったと伝えられている。

(3) 特徴

「山猿共の里下りの巻」で真っ赤な頭巾、上衣、ズボンの猿に扮した6歳から14歳までの子どもが20人ほどでいろいろな芸をする。猿使いが2人、唄はなく鳴物は太鼓・笛・鉦、今和泉島津忠郷が日向から猿使いを招いて、春秋2回領民の労をねぎらいために踊らせたと伝えられているが、猿は山の神、田の神の使いと考えられていて、やはり農耕祝福行事からはじまったものであろう。

5 保存会や地域との連携の具体性

- ・ 指宿市池田小学校区下門地区に「下門猿の子踊り保存会」が組織されている。
- ・ 集落内の児童減のために活動を休止した時期があった。
- ・ 平成26年度当初から、下門公民館長から伝統芸能継承についての相談を受け、10月時点で、保存会長に練習回数等の相談を校長が行い、PTA役員会で提案した。提案を受け、「イッシーまつり（学習発表会）」での披露をめざし、10回の練習をする。
- ・ 平成30年度から、PTA及び地域の了承を得て、総合的な学習の時間・生活科における『『いぶ好き』ふるさと学』の一環として通常の教育活動の中で、全児童が学ぶようになった。練習においては、保存会の方々の全面的な協力を受けている。

6 活用の取組で工夫した点

- ・ 下門地域の子供に限定しなかった点。
- ・ P T A会員へ投げかけての活動とし、学校は保存会との連絡調整を図った点。
- ・ P T A会員が伝統芸能保存に対しての理解が高かった点。
- ・ 学校の教育活動に取り入れ、全児童で行っている点。
- ・ 保存会を中心として、下門集落の方々の全面的な協力が得られた点。

7 取組の様子（研究発表・創作劇等）



練習の風景



指宿市生涯学習フェスティバルでの披露

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【保存会】

- ・ 復活を強く願っていたので、学校側の協力を得て取り組むことができよかったです。
- ・ 短い練習時間の中で、子供たちはしっかりと踊ってくれている。

【児童生徒】

- ・ 自分たちの踊りに校区の方々が大変喜んでくださっている。
- ・ 難しいと思っていたけど、練習を重ねていくとできるようになってうれしい。

【教員】

- ・ 猿の子踊りの動きから、子供たちの体力面の課題（腕力）を見出すことができている。
- ・ 子供たちが短期間の練習の中でよく踊れたので感心している。
- ・ 今年度は指宿市生涯学習フェスティバル（市社会教育課主催）への出演ができ、大きな舞台上で披露する機会がありよかったです。